

# 高齢者福祉施設における COVID-19感染者確認後の 迅速な初動対応の重要性



ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 博士研究員 上原 桃美

## 1 高齢者福祉施設とCOVID-19

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）患者が国内で初めて確認されて以降、我が国はCOVID-19に翻弄されてきた。同ウイルスの感染拡大による医療逼迫は毎日のように報道されてきたが、高齢者福祉施設（以下、施設）でも多くの施設がクラスターを経験し、日常業務と並行して感染対策や感染者の対応に追われてきた。ようやく、COVID-19の感染症法上の分類が5類（インフルエンザウイルス等と同等）になったことで、国内の混乱は少しずつ落ち着きつつあるものの、施設の状況は大きく変わっていない。

ダイヤ高齢社会研究財団は、東京都社会福祉協議会が2022年5月に実施した「高齢者福祉施設における新型コロナウイルス感染拡大第6波（2022/1/31～3/31）の状況等把握調査」の分析を受託した。本稿では、その分析結果の一部を紹介する。

## 2 感染者確認後の初動対応

施設での感染者確認後の初動対応は、その迅速性が重要だと言われており、速やかなPCR検査の実施や感染者の隔離がその後の感染拡大の抑制に有用であることがすでに分かっている。しかし、ここで問題なのは、施設は病院などの医療機関とは異なり、職員のほとんどが感染対策や感染者対応に不慣れなことだ。ここ数年で、施設向けにマニュアルの充実化が図られてきたとはいえ、施設職員が初動対応を迅速に遂行するのは至難の業である。そもそも、施設での初動対応に関する先行研究は少なく、ゾーニングの手法やPPE（個人用防護具）の着脱方法について触れ

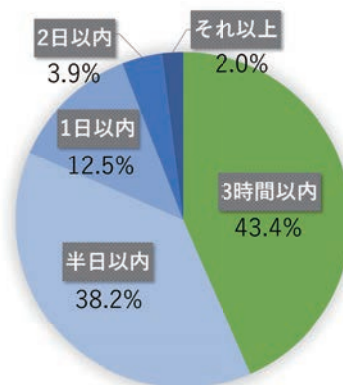


図1. 初動対応にかかった時間  
(n=152施設) ※報告書<sup>3)</sup>から筆者が作成

られたものが散見されるのみであり、“速やか”と言ってもその具体的な対応時間は示されていない。

はじめに、施設では初動対応にどの程度の時間をかけているのかを示したい。分析の対象となった152施設の初動対応時間にかかった時間の内訳は図1の通りであり、約半数の施設が3時間以内で初動対応を終えていた。つぎに、3時間以内を短時間、それ以上を長時間に再区分し、施設規模（小規模施設：定員99名以下、大規模施設：定員100名以上）による違いをみたところ、小規模施設では短時間44.1%／長時間55.9%、大規模施設では短時間42.9%／長時間57.1%と大きな違いはなく、統計的な有意差も見られなかった（ $\chi^2$ 検定）。

## 3 初動対応時間と感染状況との関連

まず、基本情報として施設規模による平均感染者数とクラスター発生率の違いを確認した。その結果、平均感染者数は小規模施設12.5（±12.2）人／大規模施設15.7人（±16.5）人で統計的な有意差はなく（t検定）、クラスター

の発生率は小規模施設57.4% / 大規模施設54.8%であり、どちらも統計的な有意差はみられなかった ( $\chi^2$ 検定)。

では次に、初動対応にかかった時間と感染状況との関連について記す。初動対応時間による利用者の平均感染者数は、大規模施設では短時間12.8 ( $\pm 15.4$ ) 人/長時間17.9 ( $\pm 17.2$ ) 人で統計的な有意差 (t検定) はみられなかったのに対し、小規模施設では短時間8.6 ( $\pm 9.0$ ) 人/長時間15.6 ( $\pm 13.6$ ) 人と統計的な有意差 (t検定) を確認した。そして、クラスターの発生率についても $\chi^2$ 検定によって同様の傾向を確認することができた (大規模施設: 短時間47.2%/長時間60.4% (n.s.), 小規模施設: 短時間33.3%/長時間76.3% ( $p < 0.05$ )) (図2)。

## 4 まとめ

総じて分かったことは、短時間で初動対応を終えることが施設内の感染拡大の抑制に繋がるということだ。とくに、小規模施設においてはその傾向は顕著であり、初動対応を短時間で終えることができた施設のクラスター発生率は半減し、利用者の感染者数も半分程度に抑えられている。大規模施設においても、施設定員数に対して感染者が占める割合が小規模施設よりも小さくなることを考慮すると、今回の分析では初動対応の迅速性の影響が顕在化しにくかった可能性がある。だとすれば、初動対応時間と感染拡大

とで有意な関連こそみられなかったが、感染が広がりにくい傾向は見られたと言えるだろう。

施設ではこれからもCOVID-19への対応が続いていく。冒頭で述べたように、感染対策に精通した職員がいる施設は僅かだ。それでも、施設での感染拡大を防ぐためには初動対応を短時間で終える必要がある。施設での初動対応の短時間化を目指し、そのための支援の検討が急がれる。なお、「日本環境感染学会誌 (一般社団法人日本環境感染学会)」に本稿に関連する論文の掲載が決定している。

### 【参考文献】

- 1) Yen MY, Schwartz J, King CC, Lee CC, Hsueh PR : Recommendations for protecting against and mitigating the COVID-19 pandemic in long-term care facilities. J Microbiol Immunol Infect, 53 : 447-453 (2020) .
- 2) 厚生労働省老健局 : 2023年1月31日-介護現場における(施設系 通所系 訪問系サービスなど) 感染対策の手引き 第2版. 介護事業所等向けの新型コロナウイルス感染症対策等のまとめページ: <https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001048000.pdf> : 2023年9月15日現在
- 3) 東京都社会福祉協議会高齢者福祉施設協議会. 高齢者福祉施設における新型コロナウイルス感染拡大第6波の状況等把握調査 分析報告 (公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 作成).

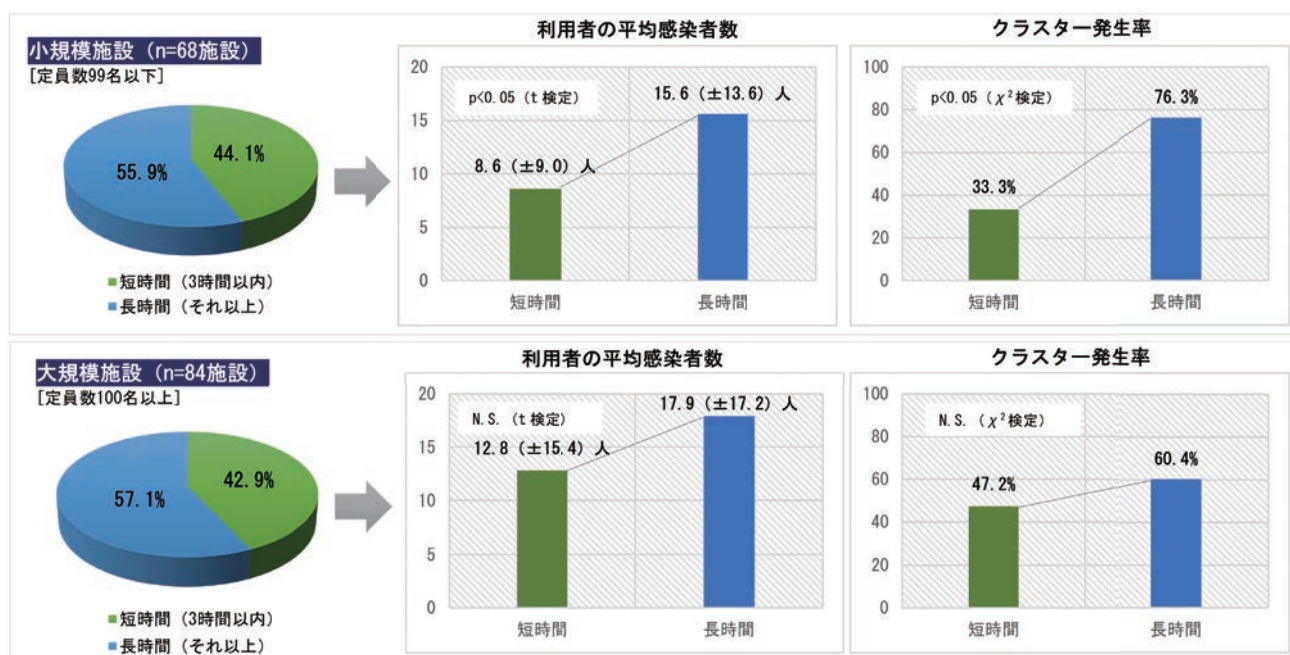


図2. 初動対応時間と感染拡大 (時間による2群の利用者の平均感染者数とクラスター発生率の違い) ※報告書<sup>3)</sup>より筆者が作成